

震災対策 特別委員会

東北大震災を

視察して

(平成23年7月9日～12日)

今回東北で発生した大震災を受け、我々震災対策特別委員会としても早急に視察を行うべきとの結論に至りました。これを受け、平成23年7月9日～12日にかけて、仙台空港付近の宮城県名取市や気仙沼市、また南三陸町や石巻市、岩手県陸前高田市等の視察を行いました。現地での宿泊施設の混乱や復旧活動の妨げにならないように、往復をバスで移動し、更に車中泊をしながらという過酷な視察となりました。黒潮町を9日の正午に出発し、翌日の午前9時という片道21時間の長旅でした。

現場に近づくにつれ、目の前に広がる惨状に視察者全員が息を飲みました。視察前に見た、テレビを通しての映像で現状を十分に理解していたつもりでしたが、あまりの悲惨さに言葉を失い、現地の凄まじい惨状に涙しました。しかし、これは現実であり、未だの黒潮町の姿を目の当たりにしていることを、視察者全員が肝に銘じることができました。特に、名取市閉上（ゆりあげ）地区などは黒潮町と同じように、太平洋に面して海岸部に松林や砂浜の丘陵地帯が広がっており、入野地区とよく似た地形になっています。ここはリアス式海岸とは全く違う地形ですが、巨大津波によって壊滅状態になっていました。

視察した様々な被災地は、我々が想像する以上にその地区全体が高く深く被害を受けており、想像をはるかに超える自然の猛威を感じざるを得ませんでした。

そうした中、我々に課せられた課題に対して早急に取り



大きな建物以外残っていなかった南三陸町。視察中に地震が発生。高台に避難する。



こんなに静かな海が人を呑み込み家を破壊したとは思えない石巻市の海岸。この堤防を波は越えた。

黒潮町震災対策特別委員長

下村 勝幸

組まねばならず、それぞれがこの視察の中で感じたことや思いつく対策方法を考えながら、現在その行動を開始したところ。町民の命を守ることを最優先に考えながら対応を急ぎたいと思いますので、町民の皆様にかかれましてもご意見等ございましたら、ぜひ、お寄せいただきたいと思えます。

また、詳細の報告書等は別途まとめありますので、ご覧になりたい方は議会事務局までお問い合わせください。



港から大型船が内陸まで流されてきた気仙沼市



気仙沼の市場ではカツオとマグロの出荷作業が再開していた。